

平成30年度事業評価採点表 NO.1

NO	委員名	1.地域の経済動向調査に関すること		2.経営状況の分析に関すること		3.事業計画策定支援に関すること		4.事業計画策定後の実施支援に関すること		5.需要動向調査に関すること		6.新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	
		評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
1		C	マンパワー不足のために未実施事業が多く、今後効率的な業務運営により実現可能な方策で対応して頂きたい。	B	経営問診票による経営把握事業所数が目標数字に達しないなどの事業もあるが、全ての事業を実施されるとともに、経営状況分析の目標達成率96.3%となるなどきめ細かな支援を行っている。	B	セミナー参加事業者数など目標数字に未達の事業もあるが、全ての事業を実施されるとともに、事業計画策定完了件数76社、達成率190%と順調な成果を挙げている。	B	専門家派遣数の大幅増など一定の成果を挙げている。	C	フィッシュカツアンケートなど精力的な取り組みもみられる。ただし、未実施事業も多いので効率的な業務運営で対応して頂きたい。	C	未実施事業も多いが、大型ショッピングセンターでの展示会等工夫を行い実施されている。
2		C	未実施事業が多く、実施に向け具体的な対応検討が必要。調査については、必要性、会員に向けた周知をどうしていくのが課題。	B	巡回・窓口相談件数は、目標を上回り、評価できる。経営状況分析実施件数も目標に近いもので評価できる。	B	事業計画策定完了件数は、目標を上回り、評価できる。セミナー、個別相談会は参加事業者が少なく、まず周知が足りていない。	B	フォローアップについては、目標に近い実績を上げ評価できる。	C	未実施事業が多く有効な実施方法の検討が必要	C	未実施事業が多く有効な実施方法の検討が必要。商談会への参加では、効果があがりつつあるので、さらに工夫を重ねて数字の上積みを目指す。
3		C	コメントなし	B	コメントなし	B	事業計画策定完了件数が目標40社に対し、76社の実績という点は評価するが、セミナーへの参加者を増やす工夫が必要。	B	専門家の派遣については、ほぼ目標を達成しており、中小企業に寄り添う伴走型支援が行われていた点は評価したい。	C	未実施の事業があったため、評価をCとしたが、消費者目線を意識し、女性によるモニタリングを実施し、その結果が今後の商品開発、販路開拓に生かせる成果物としてまとめられている点は評価したい。	C	この事業については、小規模事業者の弱みであるので、今後の取り組みに期待する。
4		C	RESASや地方自治体が公表しているデータの活用だけでなく、次年度以降は、管内事業者を対象とした動向調査の実現に向けて取り組んで頂きたい。管内事業者の生の声が反映された調査結果は非常に有益なものになると考えます。	C	巡回・窓口相談件数は目標を十分に達成している。次年度以降はセミナーや個別相談会の周知・案内に努めて頂きたい。	B	事業計画策定完了件数は目標を十分に達成している。次年度以降は、セミナーや個別相談会の周知・案内に努めて頂きたい。	B	事業計画策定済事業者へのフォローアップは概ね達成されている。特に専門家派遣事業は事業者が経営課題を解決していく上で、必要かつ有益なものだと評価できる。	C	海外販路に関する需要動向調査については、県内事業者が販路を拡大・獲得していくうえで、今後必要になるものと感じている。JETROなど関係機関と連携して取り組んで頂きたい。	C	販路の開拓・拡大は小規模事業者にとって最も大きな課題であり、悩みでもある。今回未実施だった物産展やセミナーの開催により、事業者の販路開拓に寄与することを期待している。
5		C	初年度ということで実施に偏りがある。今後の実施への取り組みに期待する。	C	巡回・窓口相談件数は目標をクリアしている。状況を把握することで、今後の改善に結びつくこともあり、今後目標のクリアを期待する。	C	セミナー・相談会は開催されている。今後、周知方法を工夫し参加事業者の増加を図って欲しい。	B	事業計画策定後のフォローアップは、概ね目標を達成している。今後、事業者の業績アップに結びついていくことを期待する。	C	初年度ということで実施に偏りがある。今後の実施への取り組みに期待する。	C	初年度ということで実施に偏りがある。今後の実施への取り組みに期待する。
総合評価		C	C-5名	B	B-3名、C-2名	B	B-4名、C-1名	B	B-5名	C	C-5名	C	C-5名

平成30年度事業評価採点表 NO.2

No.	委員名	地域の活性化に資する取り組み		他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること		経営指導員等の支援能力の向上の仕組み		支援ノウハウ等を組織内で共有する体制	
		評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント
1		C	地元大学等の産学連携など未実施事業が多いが、徳島市と連携した講座等については、一定の効果が認められる。今後、効率的な業務運営で実施事業を拡大して頂きたい。	B	各種連携会議への積極的な参加等を通じて、他の支援機関等との支援ノウハウ等の情報交換を精力的に行っている点は評価できる。	B	日本商工会議所所管のWeb研修等、様々な形で指導員の能力向上施策を実施している。特に、基幹業務管理システム「チエーンバースバック」内の「経営カルテ」システムの活用は経営支援力向上に大きな成果を上げている。	B	各種の情報交換会や研修で得られた個人の知見やノウハウを組織として共有することが大切であるが、「経営カルテ」システムの活用により「情報の共有・蓄積の仕組化」の構築が出来つつあることが認められ、一定の評価に値する。
2		C	未実施事業が多く、有効な実施方法の検討が必要。	A	情報交換等については、良く対応している。	B	経営指導員等の支援能力の向上は、商工会議所の「要」の事業であり、引き続き重点的に行って頂きたい。	B	個人のノウハウを組織力としてどう生かしていくのか、十分なPDCAサイクルを回していくべき。
3		C	他の団体との連携が進んでいないようなので、進めて欲しい。	B	コメントなし	B	経営指導員のスキルアップのための研修は計画的に順調に行われている。	B	コメントなし
4		C	地元大学との連携は若者の県内定着、移住交流センターとの連携は移住者の定着と増加につながり、徳島市の活性化に資する取り組みになると思うので、次年度以降着手して頂きたい。	B	他の支援機関との連携会議や研修会への参加を通じ、支援ノウハウの情報交換はなされている。今後も徳島商工会議所の活動や取組内容の積極的な発信を期待している。	B	経営指導員の支援力アップに向けた取組みは計画どおり実施されていると評価できる。	B	「経営カルテ」システムの活用等により、属人的になりがちな支援ノウハウを組織内で共有する体制は整いつつある。今後もノウハウの蓄積・共有・活用に努めて頂きたい。
5		C	効率的に事業を達成するため、いち早く他の団体との連携等を推進し、目標に近づけて欲しい。	B	情報連携については実施しているが、今後より幅広い情報を得られるよう新たな情報連携を期待する。	B	WEB研修、指導員スクエア、メルマガ等、有効に活用されているようである。	C	一人のノウハウで支援できることは限られていると思うので、組織内、専門家等を含め、ノウハウの構築に努めて欲しい。
総合評価		C	C-5名	B	A-1名、B-4名	B	B-5名	B	B-4名、C-1名